

# 2021年度

## 国語入試問題

(2021年2月24日実施)

座席番号									
------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

### 【注意】

1. 解答はすべて「解答用紙」の所定の欄に記入してください。
2. 問題用紙および解答用紙は持ち帰ってはいけません。
3. 使用用具は、黒鉛筆またはシャープペンシル（H、F、HB、B）、消しゴム、鉛筆削り（電動式・大型のものは不可）とし、それ以外の使用は認めない。

解答用紙はマークセンス方式および記述式です。

1. 解答用紙は、汚したり折り曲げたりしないこと。
2. マークの記入に際しては、解答用紙に示されたマーク記入例に従って黒鉛筆またはシャープペンシル（H、F、HB、B）で正確に記入すること。
3. 記入間違いは、消しゴムで完全に消してから記入すること。
4. 座席番号記入欄には座席番号を、解答欄にはマークを記入する、あるいは記述すること。

問題Ⅰ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

鴨長明かものちやうめいがこんなことを言っている。想像力のある相手には、隠しておいて、ほのめかすほうが口コツ(a)に全てをみせるよりも効果的である。たとえば男が浮気をしたとき、(1) 女が泣き叫んで訴えるより、じつと耐えながらときおり涙ぐんだりしてみせるほうが男の心に刺さるものだ、と。長明は『方丈記』で有名だが、もともと歌人であって『無名抄』という歌論書も書いた。その中で「幽玄体」という和歌の新しい手法を説明するとき、右の「忍ぶ女」のたとえを用いた。さらに霧に隠れた紅葉にもたとえている。紅葉の季節に山へ行っても霧でほとんど見えないことがある。しかし「霧の切れ目から少しだけ見える紅葉は、もし山の全体が見えたらどんなに美しいだろうと想像させる。この想像の紅葉はじつさいに見るよりも美しい」と。これは美についての **A** 的な主張だった。それまで美とは見えている対象の特性だとされていたものを、長明は人の想像力が生み出す美もあり、しかもそのほうがより美しいとしたのである。

この「幽玄体」は藤原定家の創始した作歌法である。 **A** 定家の歌を例にとろう。次の歌は古来「三夕の歌」(秋の夕暮ゆうぐれを詠んだ三つの名歌)の一つとして名高いものである。

見渡せば花も紅葉もなかりけり浦の苫屋とまやの秋の夕暮

『新古今集』

日本の古典世界では花(桜)と紅葉が美の代表である。だがこの歌は、そんなものは何もないと言う。(b) コウリヨウコウリヨウたる浜辺の粗末な小屋に住んで、しかも秋の日は暮れようとしている。なんとも侘しい報告である。この歌の特徴は見えないものを語るところにある。「花も紅葉もなかりけり」とわざわざない物の名をあげるのはなぜか。それは詠み手が無いものを想像したことを告げているのである。浜辺の貧しい小屋の中で、かつて都で見た華麗な花紅葉を想像するという作業は、白居易が雨の夜に田舎の草庵そうあんの中で、花の盛りの都での生活を想像したのに似ている(たぶん定家の歌は、白居易の詩と流罪にあった海辺の歌人たちの歌をふまえている)。想像された花は単に美しいだけではない。失われたものであるからこそ、深く心に沁しみみるのである。

この美意識は『徒然草つれづれぐさ』の吉田兼好に受け(c) ツがれる。彼は「桜は満開のときに、満月は雲のない夜にだけ見るものではない」という **B** 的な言葉を残した。そして桜は散ったあとに、月は雨で見えない夜に想像するのがいいのだと説く。

似たような見解は世阿弥ぜあみの能楽論にもある。『風姿花伝』は「花」を能の理念として説いたことで知られる。花のような魅力・美しさこそ能楽師のめざすべきことだというのだ。ところが当時の観客は能の批評にしばしば「しおれたる」という言葉を使っていた。花が盛りを過ぎて萎しおれてしまった状態だというのである。これは誉ほめているのかけなしているのか? この質問に対し、(2) なんと世阿弥は「しおれたる」は「花」よりも上だと答えるのである。ただしそれは「花」が萎れたものでなければならぬと付け加える。萎れた花を見ると、私たちは盛りの花を想像する。だがしなびた草を見ても、そこに花を想像することはない。世阿弥は美しい「花」を想像させるしかけとして、「しおれ

た」花を評価するのである。

多くの歌が目に見える光景だけを語るのに対し、定家の歌は表面（現実）と裏面（想像）の二重構造を持っている。このような手法が有効であるためには、読者の側の想像力が発動されなければならぬ。もし読者が事前に花紅葉を見たことがなければ、またそれを想像することができなければ、この歌は成り立たない。同様に、能の名人の「しおれた」芸は、ただ貧相なものしか見えないだろう。のちに「見渡せば」の歌は茶道の精神を表すものとしてしばしば取り上げられるようになる。そのきっかけは一七世紀末に成立した茶書『南方録』にある。これは千利休の教えを書き留めた茶の秘伝書という形式をとっているが、実態はさまざまな伝承を利休没後百年ほどしてとりまとめたものであるようだ。だから『南方録』で利休の言葉としているものが本当に利休のものかどうかは疑わしい。けれども三百年近くの間これが利休の思想を伝える秘伝書と信じられ、茶人たちが大いに珍重してきた事実がある。だからここでは、江戸時代から最近までの茶道の精神を反映している資料として取り上げることとする。

『南方録』は武野紹鷗（利休の師）が侘び茶の心を表すものとして定家の「見渡せば」の歌を示したと伝え、これは「花紅葉」つまり美は心の中にあるという教えだと解釈する。注目すべきはこれに続く一文である。利休はこれに加えて、藤原家隆の次の歌を示したと伝える。

花をのみ待つらん人に山里の雪間の草の春を見せばや

春と言えば華やかな桜しか考えない人に、山里の雪の隙間からわずかにのぞく草が示している春をこそ見せてやりたいという。この光景が美しいのは、その小さな芽が来るべき春を、そしてやがて全山を覆う新緑の光景を予感させるからだ。いったんは全てが死滅した世界に、再び生命が復活し、世界を覆い尽くす。だがこの光景に感動できるためには想像力が必要である。まだ目に見えない春について、おそらくは現実以上に美しい姿を思い描く力が。

定家の歌と家隆の歌は共に表に見える侘しい世界と裏に想像される華麗な世界という二重構造を持つている。しかし違いはある。定家の歌の場合、表面には何もない。すべての美は想像力によって呼び出される。だが家隆の歌では眼前に「雪間の草」がある。それはまだ花ではないけれども、すでに春の予感を孕んだ新しい生命である。想像しうる全ての春のイメージが、目の前の草に凝縮されている。そう思っただけで見るとき、雪の間からのぞくわずかな草は強烈な力をもって目を打つだろう。

I

目に見えるものだけが美ではないこと、むしろ想像力によって心中に描かれたものの方がより美しいと考える伝統が、中世以来の日本にあった。それは見える表と想像される裏という二重構造の発見でもあった。だが当初は、(3)二重構造の裏側が全く見えないことと、少しだけ見えることとの区別は明確ではなかった。しかし江戸時代にはこの区別が明確に意識されたことが、『南方録』における家隆の歌の追加からわかる。

一見何もない表面の裂け目に、ふと裏側の一部がのぞいて見えるとき、そしてそこに表とはまった

く違う世界があることが示唆されるとき、見る人の興味が刺激され、意識がそこへ集中し、想像力が動き始める。言い換えれば、他者に魅力を訴えようとするとき、一見なんの魅力もない表面の裂け目に、少しだけ美しい裏側の世界をほめかすという戦術をとれば、見るものの関心を(d)カンキし、つよく注意を引き付けることができる。これは自分の持つ美しいものをできるだけ効果的に訴える戦略として役に立つだろう。

たとえば現在の芸妓の正装（「出の衣裳」）は黒紋付である。帯は金糸銀糸を含むけれども色はない。襟元に覗く半襟も白である。裾に(e)モヨウはあるけれども、座敷に座ってしまえば上半身は黒と白だけの印象となる。イ帯の上にわずかに出ている帯揚げが赤い。この強い赤色が礼装のモノトーンとYコントラストをなして、ひととき肉眼に立つ。さらにときどき袖の口から、また裾の間から赤い色が見えることがある。長襦袢がちらりと覗くのである。このわずかに洩れる赤色によって、正装の芸妓は地味どころか艶に見える。なぜなら、私たちは黒白の着物の裏に、赤い色が示唆するものを想像するからである。

江戸時代になると、美しいもの、価値あるものを隠すこと、あるいは隠しつつ少しだけ見せることを(4)「いき」とみなす美意識が生まれた。木綿の着物の裏地に絹を張り、地味な着物の下に緋縮緬の襦袢を着る。そして翻る裾の裏に一瞬絹が、お銚子を持つ手の袖口から襦袢の赤がちらりと見える。そのとき、表面だけを見ていたときはまったく別の世界が示唆される。裏に隠された華麗な、あるいは妖艶な世界が。思わず、それに向けて想像力が発動する。さらに関心は、それをあえて隠している行為そのものに向かう。隠された美が「いき」なのではない。それを表にあらわすことを恥じて隠している行為が「いき」なのである。

（尼ヶ崎彬『いきと風流——日本人の生き方と生活の美学』）

問1 傍線部(a)～(e)と同じ漢字を含む語を、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、

(a) 1、(b) 2、(c) 3、(d) 4、(e) 5。

(a) ロコツ

1

- ① ワイロの受け取りを拒否する。  
② リロ整然と語る。  
③ 真実がロテイする。  
④ ダンロに薪まきをくべる。  
⑤ フロシキを広げる。

(b) コウリヨウ

2

- ① キュウリヨウ地帯が続く。  
② 他国の領海でミツリヨウする。  
③ 財務カンリヨウを目指す。  
④ 違いがメイリヨウである。  
⑤ セイリヨウ飲料水を飲む。

(c) ツがれる

3

- ① お茶のケイコに励む。  
② 貴族文化へのショウケイ。  
③ 緊密なレンケイをとる。  
④ 文学研究にケイトウする。  
⑤ 契約をケイゾクする。

(d) カンキ

4

- ① イカンの意を表する。  
② 上司のカンシンを買う。  
③ 証人をカンモンする。  
④ 地域をカンカツする。  
⑤ 税金のカンブを受ける。

(e) モヨウ

5

- ① チョウボに記入する。  
② ボコウを訪れる。  
③ 故国へのボジョウ。  
④ 社員をボシユウする。  
⑤ 組織のキボを縮小する。

問2 傍線部X「ほめかす」、Y「コントラスト」の意味として最も適当なものを、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、X 6、Y 7。

X ほめかす

6

- ① 秘密のままにしておくこと
- ② 相手の判断に任せること
- ③ 秘密を打ち明けること
- ④ それとなく示すこと
- ⑤ ある方向へ仕向けること

Y コントラスト

7

- ① 効果的な組み合わせであること
- ② 対照的であること
- ③ 望ましい組み合わせでないこと
- ④ 対抗しあっていること
- ⑤ 魅力を引き出していること

問3 傍線部(1)「女が泣き叫んで訴えるより、じっと耐えながらときおり涙ぐんだりしてみせるほうが男の心に刺さるものだ」とあるが、それはなぜか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、8。

- ① 表面に出して分かりやすく悲しむよりも、感情を押し殺している様子を見せた方が、心の奥により深い悲しみが存在していることを相手に想像させるから。
- ② 泣き叫んで訴えるよりも、じっと耐えている様子を見せる方が、悲しみを表面に出して訴えることもできないほど疲弊していることを相手に悟らせやすいから。
- ③ 女が悲しみに耐えながら涙ぐんでいる様子には、定家が考案した作歌法である「幽玄体」に通じる独特の美しさで相手に訴えかける効果が見られるから。
- ④ 泣き叫んで相手に訴えることなく、じっと悲しみをこらえて涙ぐむことが、相手の過失に対して強い皮肉を込めながら非難することにつながるから。
- ⑤ 泣き叫んで相手に訴えることは悲しみを発散することでもあるため、じっと悲しみをこらえて涙ぐむ方が泣き叫ぶよりも相手に悲しみを余すことなく伝えられるから。

問4 空欄 A、B に入る語として最も適当なものを、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、A 9、B 10。

A ① 社会 ② 画期 ③ 基本 ④ 反俗 ⑤ 哲学

B ① 挑発 ② 皮肉 ③ 概略 ④ 屈辱 ⑤ 好戦

問5 空欄 ア、イ に入る語として最も適当なものを、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、ア 11、イ 12。

ア ① たとえば ② または ③ しかし ④ だから ⑤ たしかに

イ ① たしかに ② けれども ③ そこで ④ よって ⑤ さらに

問6 傍線部(2)「なんと世阿弥は『しおれたる』は『花』よりも上だと答えるのである」とあるが、それはなぜか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、13。

① しおれた花は経過してきた時間に相応する味わい深さがあり、盛りの花には見ることできかない円熟味がたくさん感じられるから。

② 草であろうと花であろうと、しおれることによって見る者に盛りの時期を想像させる「しおれ」を手にすることができから。

③ 「しおれる」という言葉は、抽象化された世阿弥の能楽論において最上位の誉め言葉であり、盛りの花の具体的な美しさを超越したものであるから。

④ しおれた花は盛りが失われたものであるからこそ、人々の心に深く沁み入り、盛りの頃を想像させる契機となることができるから。

⑤ 花がしおれた様子から盛りの時期の様子を想像する楽しみは、世阿弥にとって何にも代えがたいものであるから。

問7 空欄

I

に当てはまる表現として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、14。

- ① それは想像を超えることはなく、人々に現実をありありとした形で実感させる
- ② それゆえに人々は、華やかな桜を見るために山を下りていくのである
- ③ それはひよっとしたら、満開の桜よりも深い感動をもたらすかもしれない
- ④ それは春には見られない、冬の魅力が詰まった風物詩とも言えるだろう
- ⑤ それだけにかえって、草を覆う雪をいちだんと恨めしく思うのである

問8

傍線部(3)「二重構造の裏側が全く見えないことと、少しだけ見えることとの区別」とあるが、「少しだけ見えること」の効果はどのような点にあるか。文中の記述を参照しながら五十字以内で説明しなさい。句読点を字数に含む。解答番号は、15。

問9

傍線部(4)「『いき』とみなす美意識」とあるが、どのような意識のことか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、16。

- ① 裏に隠された世界に美しさを見出し、積極的に表に引きずり出そうとする意識。
- ② 裏に隠された世界の美しさをひたすら隠し続け、誰にも見つからないことを美とする意識。
- ③ 裏に隠された世界の美しさを表にあらわすことを恥じ、あえて隠そうとする意識。
- ④ 裏に隠された世界にこそ本来の美しさがあると信じ、未知の美を探求しようとする意識。
- ⑤ 裏に隠された世界が表にあらわれる、その刹那に美を見出そうとする意識。

問10

本文の内容に合致するものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、17。

- ① 鴨長明は「幽玄体」の説明において、実際のものよりも、人が想像によって生み出すものほうがより心に響くことを説明するために、「忍ぶ女」のたとえを用いた。
- ② 吉田兼好は「桜は満開のときに、満月は雲のない夜にだけ見るものではない」という言葉によって、人々がこれまで気づかなかった散り際の桜や欠けた月の美しさを説いた。
- ③ 定家の「見渡せば」の歌も、家隆の「花をのみ」の歌も、歌の表面には見えない華麗な世界を読者が想像できなければ、感動することはできない。
- ④ 江戸時代になると、実際に目に見えるものを「表」、想像力によって心の中に描かれるものを「想像される裏」とする二重構造が発見された。
- ⑤ 芸妓の礼装である「出の衣裳」は、帯揚げや長襦袢の強い赤を隠すことによって、隠された美が「いき」であるという江戸の美意識を体現している。



問題Ⅱ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

はたして「フェイクニュース」や「ポスト真実」は、二一世紀のいまを象徴する言葉だろうか。同じような現象を八〇年前にさかのぼって指摘するのはたやすいことだ。一九三九年九月一日にドイツのポーランド侵攻で第二次世界大戦は始まったが、当時日本の新聞は正しい戦況ニュースを伝えていただろうか。英独双方からの「捏造ニュース」が紙面に掲載されたことを、翌四〇年四月一三日付『東京朝日新聞』は「東人西人」欄（『大阪朝日新聞』の「天声人語」に相当するコラム欄）で認めている。ドイツ占領下のノルウェーの軍港トロンハイム、ベルゲンをイギリス海軍が奪回したという(a)カクウの「目撃記」がロンドン、ストックホルム発の特電として掲載された経緯を、「東人西人」はこう説明している。

どうしてこんなデマが飛ばされ、世界の視聴を何時間か集め得たかについてドイツ側では「オスロで発行されてゐるモルゲンブラデツト紙の社主であり、ノルウェー通信社の重役で、且ノルウェー議会議長もしてゐるハンブロといふ男が、タツタ一人ですトツクホルムの或るホテルの入室にゐて、この両港を英海軍に奪回させたのだ」と言つてゐる。即ち十一日午後七時十五分、スエーデンのラヂオで突如この大デマを放送し、それが全世界に伝播された訳だが、大戦の裏の裏には、かうした奇々怪々な宣伝戦が乱れ飛んでゐるんだ。

もちろん、ドイツ側の説明も A にすべきでないわけだが、ホテルの一室にこもった一人の男がデマ情報をデッチ上げ、それがラヂオ放送で全世界に広まったという説明を読んだとき、(1)私の脳裏に浮かんだのはパソコンの前でニュースを捏造するマケドニアの青年の姿だった。二〇一六年の米大統領選挙期間中にSNS上に氾濫した「ローマ法王がトランプ支持を表明した」「ヒラリー・クリントンにはシリア戦争でもうけている」などのフェイクニュースを量産したのは旧ユーゴスラビアのマケドニア共和国ヴェレスに住む青年だった。それは偽ニュースサイトを立ち上げてクリック数で広告料を稼ぐ現代的なビジネスだが、この「フェイクニュース産業」の背後にはロシア情報機関が見え隠れしている（津田大介、二〇一八）。同じように、一九四〇年スウェーデン発の「捏造ニュース」にもイギリス情報省の影を見るべきだろう。ちなみに、自国に不利なニュースでも正確に伝えたほうが報道への信頼性が高まるという X プロパガンダ理解がイギリス情報省やBBC（英国放送協会）で進んだのは、この「誤報」事件を契機としている。

右の「東人西人」コラムを引用して、林二十六「捏造ニュースと新聞」は「新聞の紙面は英・独双方の宣伝ニュースで完全に埋めつくされた」と批判する。『現代新聞批判』（一九三三～四三年）は、前年に大阪朝日新聞社を追われた自由主義者・太田梶太が創刊した反ファシズムの (b) カクシユウ刊紙である。その執筆陣には滝川事件の余波で同志社大学を去った住谷悦治（戦後の同志社大学総長）、エスペランティストの新村出（広辞苑の編者）、唯物論研究会の戸坂潤（哲学者）、「反骨のジャーナリスト」鈴木東民（日本電報通信社ベルリン特派員）、「日本人シンドラ」<sup>とうみん</sup>と韓国で呼ばれる布施辰

治（人権派弁護士）などが加わっていた。林二十六はそこで誤報解説——今日の言葉で言えばファクトチェック——に「もっと多くの紙面が割かれねばならない」と主張していた。

朝日の「東人西人」欄は、それ（ニュース源＝筆者、以下同）について一回弁明的な記事を書いたが、あ、いふ記事は、特電を盛んに掲載する新聞は、毎日その紙面に載せるのが当然である。（略）特電の中には、本社の編集室の片隅で創作されたものもあるのだから、ニュース源の明示と解説は、読者に対する新聞の絶対的な義務とせねばならぬ。

そうした(2)「絶対的な義務」を新聞社が果たさない理由を、林は三つ挙げている。第一に、自社掲載の記事を捏造だと発表することにより読者の信用を低下させるのではないかという不安。第二に、新聞を商品と考える新聞社の多くがコストのかかるニュース調査機関を備えていないこと。第三に海外からの特電を権威付けに利用する新聞が、その価値を損なう知識の普及に消極的であること。こうした新聞社の不作為の説明は、今日でも十分に通用するのではなからうか。

ア、当時の新聞読者は「捏造ニュース」をどう読んでいたのだろうか。その約二か月前、戦時下の読者に「リテラシーの向上を求める五城朗「戦争ニュースは欺く」が同紙に掲載されていた。今日のフェイクニュースの原型とも言えるような「与太ニュース」の氾濫を指摘した上で、五城はアメリカの『フォーチュン』誌が行った各国首都（ワシントン、ロンドン、パリ、ベルリン、モスクワ）からの外電に関する信頼度調査を引用している。ロンドン電で三二・四％、パリ電で三三・四％、モスクワ電なら五四・二％、ベルリン電に至っては五九・一％のアメリカ国民が「ほとんど信じない」<sup>シ</sup>と答えている。イ アメリカ国民は自国のワシントン電に対してさえ、一・二％が強い猜疑心<sup>さいぎしん</sup>を表明していた。その事実を示した上で、五城は日本国民に「一切の戦争ニュースを(c)「ケイカイせねばならぬ」と呼びかけている。

どんなニュースに対しても、まず(3)「聡明な懐疑心<sup>そうめい、わいぎしん</sup>を働かせ、苟くも軍事的に見て不可能<sup>あまひ</sup>或は不合理な内容であれば、直ちに虚報であると(d)「カンパするだけの眼識<sup>がんしき</sup>が具<sup>そな</sup>はれば、もはや戦争ニュースも「欺く」ことは出来なくなるわけである。

翌一九四一年二月八日、ドイツ軍の優勢を信じて日米開戦に踏み切った日本の政治指導者にも、そうした「眼識」はなかったようだ。とはいえ、「聡明な懐疑心」を訴えた五城さえもドイツ軍のポーランド占領、フランス降伏とつづいた電撃戦には幻惑されていたのだろう。「新聞は、思想電撃戦の最も浸透的で、最も有力なる武器である」と、真珠湾攻撃の四か月前、「国際ユダヤ閥の世界新聞統制を衝く」を書き起こしている。五城は「国際ユダヤ閥の支配下にある大通信社」の虚報製造システムを次のように解説していた。

マーク・トウエーンが、「真実が靴の紐を結ばぬうちに、虚偽のニュースは世界を一周してし

まふ」といつてゐるやうに、新聞の虚報が常にその取消よりもスピーディーに世界に B すること、更に、一度プリントされた以上、結局何ものかは後に残る、といふのがこれ等通信社の虚報製造のつけ目である。たとへ訂正要求、取消、その他の障碍しょうがいが起つたとしても、報道の(e)ジンソクと競争といふ理由のために、各新聞社はニュースの真偽を確かめる余裕がないので、自由主義的な新聞は、無批判にこれ等通信社の製造せる虚報を掲載してしまふのである。

これほど虚報の効果を「聡明な懐疑心」をもって分析できる五城が、なぜ典型的なメディア流言ともいべきユダヤ陰謀論に入れ込んでしまったのか。知識や理性だけでフェイクニュースを打破ることができると考えるべきではないようだ。それ以上に強調しておきたいのは、小説家マーク・トウェイン（一九一〇年没）の警句、「真実が靴の紐を結ばぬうちに、虚偽のニュースは世界を一周してしまふ」が第一次世界大戦以前から存在していたことである。「ポスト真実」を私たちはデジタル時代と結びつけて考えがちだが、それは一九世紀の電信時代から確認できる現象である。同じように「聡明な懐疑心」を具えた批判力の養成は、AIとビッグデータによる「超スマート社会」のために現在行われる情報教育でも大きな課題となっている。

それにしても、猜疑心がもつばらSNSなどニューメディアに集中的に向けられている現状においては、まずメディア史的思考に立ち戻ることこそ必要だと私は考えている。果たしてSNSのデジタル情報より印刷メディアのアナログ情報を信頼する態度に陥穽かんせいはないのだろうか。

（佐藤卓己『流言のメディア史』出題の都合上、一部中略した箇所がある。）

問1 傍線部(a)～(e)と同じ漢字を含む語を、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、

(a) 18、(b) 19、(c) 20、(d) 21、(e) 22。

(a) カクウ 18

- ① けが人をタンカにのせる。
- ② ザツカ店を開業する。
- ③ 作品がカサクに入選した。
- ④ カレツな扱いに耐える。
- ⑤ 彼はカモクな人だ。

(b) カクシユウ 19

- ① リンカクを線でなぞる。
- ② チカク変動の痕跡。
- ③ そびえ立つテンシユカク。
- ④ 作物をシユウカクする。
- ⑤ 世間からカクゼツされた地区。

(c) ケイカイ 20

- ① ハイカイをたしなむ。
- ② 丁寧にかイシヨで書く。
- ③ カイリツを守る。
- ④ ユウカイ犯を逮捕する。
- ⑤ 議論にかイニユウする。

(d) カンパ 21

- ① 入院カンジャに声をかける。
- ② 不正をカンカする。
- ③ ジャツカン二十歳にして達成する。
- ④ カンヨウな態度をとる。
- ⑤ 企業をカンサする。

(e) ジンソク 22

- ① ジンギを欠いたふるまい。
- ② ジンジョウではない傷。
- ③ ジンゾウを移植する。
- ④ ジンライが鳴り響く。
- ⑤ ジンダイな被害。

問2 空欄 A、B に入る語として最も適当なものを、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、A 23、B 24。

A 23 ① 邪険 ② 反故<sup>ほご</sup> ③ 鵜呑み<sup>うの</sup> ④ 棚上げ ⑤ 不問

B 24 ① 増長 ② 流布 ③ 反抗 ④ 普遍化 ⑤ 盲従

問3 傍線部(1)「私の脳裏に浮かんだのはパソコンの前でニュースを捏造するマケドニアの青年の姿だった」とあるが、筆者はストックホルム発の特電とマケドニアの青年との間にどのような共通点があると考えているか。最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、

25。

- ① 全世界が衝撃を受けると予想される事件を捏造して発信することで、多額の広告料を獲得しようとする点。
- ② 分かりやすいフェイクニュースを拡散することで、相手国内の正常な情報の発信を妨害しようとする点。
- ③ 自国に不利な情報を正確に伝えた方が報道の支持率が上がりやすいという風潮を醸成しようとする点。
- ④ 一般の人々の目に見えないところで、敵対する相手国と直接相対することなく激しい宣伝戦を繰り広げた点。
- ⑤ 根拠のないデマ情報を拡散することで、発信者の黒幕となる国家にとって有利な状況を作り出そうとする点。

問4 傍線部X「プロパガンダ」、Y「リテラシー」という語を、本文における意味内容をふまえて正しく用いている例文を、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、X 26、Y 27。

X プロパガンダ

26

- ① 隣国は発足以来、プロパガンダに向けた政策を実行している。
- ② 将来は自国のプロパガンダの発展に貢献するのが目標だ。
- ③ 敵国にプロパガンダを要求しても一向に受け入れられない。
- ④ プロパガンダを行い敵国の国民に政治への不信感を抱かせる。
- ⑤ 国民に正しいプロパガンダを習得させることが国家の義務だ。

Y リテラシー

27

- ① 個人のリテラシーに抵触するような行為は極力慎まなければならない。
- ② 本書は今年度に刊行された文学作品の中で最もリテラシーな作品である。
- ③ 彼の勇気ある行動は、非常にリテラシーにあふれる行為と言うことができる。
- ④ 社会で活躍するためには、まず政治情勢に関するリテラシーを身につけるべきだ。
- ⑤ 裏の意味を読み取るだけでなく、そのままのリテラシーな意味で解釈すればよい。

問5 傍線部(2)「絶対的な義務」を新聞社が果たさない」とあるが、その理由について適当でないものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、28。

- ① 社会的に重要性の高いニュースであればあるほど、発表すると各方面の団体から圧力を被る危険性があるから。
- ② 報道のスピードを優先させると、フェイクニュースでないかどうかをしっかりと確かめる時間的な余裕がないから。
- ③ 新聞社は自社に権威を付けるために海外のニュースを引用しており、権威を失墜させる情報を発信したくないから。
- ④ 本来コストを費やしてニュースを手に入れるべき新聞社が、適当な調査機関を有していないから。
- ⑤ 自社の新聞に掲載した記事を捏造だと発表することによって、読者の信用を低下させるおそれがあるから。

問6 空欄「ア」、イに入る語として最も適当なものを、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、ア29、イ30。

- |   |    |        |        |        |        |
|---|----|--------|--------|--------|--------|
| ア | 29 | ① しかも  | ② 一方   | ③ 当然   | ④ しかるに |
|   |    | ⑤ けだし  |        |        |        |
| イ | 30 | ① いわゆる | ② それゆえ | ③ 要するに | ④ それでも |
|   |    | ⑤ もっとも |        |        |        |

問7 傍線部(3)「聡明な懐疑心」とあるが、どういうことか。文中の記述を参照しながら四十五字以内で説明しなさい。句読点を字数に含む。解答番号は、31。

問8 筆者の主張に合致するものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、

32。

- ① 情報戦が頻繁化する今日では、戦争ニュースは大抵の場合虚偽ニュースと受け取られることが多い。
- ② 現代的なビジネスとして、偽ニュースサイトを立ち上げてクリック数で広告料を稼ぐ「フェイクニュース産業」が定着している。
- ③ ドイツによるポーランドやフランスの侵略では、爆撃に代わる新たな兵器として電撃を用いた攻撃が行われた。
- ④ インターネットやSNS上の情報よりも、紙媒体によるアナログ情報の方が信頼できるとは限らない。
- ⑤ 「フェイクニュース」や「ポスト真実」はデジタル時代である二一世紀の現代に特有の事象である。



国語（20210224） 解答一覧

大問	小問	解答 番号	正解
問題 I	問 1	1	③
		2	⑤
		3	⑤
		4	③
		5	⑤
	問 2	6	④
		7	②
	問 3	8	①
	問 4	9	②
		10	①
	問 5	11	④
		12	②
	問 6	13	④
	問 7	14	③
	問 8	15	記述問題
問 9	16	③	
問10	17	①	
問題 II	問 1	18	①
		19	⑤
		20	③
		21	②
		22	④
	問 2	23	③
		24	②
	問 3	25	⑤
	問 4	26	④
		27	④
	問 5	28	①
	問 6	29	②
		30	⑤
	問 7	31	記述問題
	問 8	32	④